

教養講座 地无字と考える

第四百二十二回「地无字と考える」
(二〇一五年十月十七日開催)

「迷子のミーちゃん
地域猫と商店街再生の
ものがたり」

講師 木附 千晶さん

【映画の感想】

ひまわりプロジェクトに通ずるものを感じました。一匹の野良猫が商店街の人々を繋ぎ、その仲を深めていく様子は、現代社会において希薄化する直接的人間関係を独特なアプローチで回復させる手法を提示してくれているのだと思います。

ある目的のために人々が結束することはよくあることです。その目的が、営業売り上げ向上のため、などといった競争意識を煽るようなものではないことがポイントです。彼らはそれぞれ自発的に猫を捜索しているものであり、誰かに押し付けられた行為ではありません。その中で、偶然、今まで関わりがなかった人々との交流を深めていきます。本来、こういうことは日常の中でありふれた光景とは言うことができないの

ではないでしょうか。インターネットを介して見知らぬ他者と繋がることは容易にできますが、直接的に関わることは中々ありません。しかし、本作ではごくありふれた日常として描かれています。

ひまわりプロジェクトも同様に、何かを通して人々の直接的コミュニケーションを促す取り組みです。本作では、その「何か」が野良猫ですが、繋がるきっかけはなんでもよい。Face of Face のコミュニケーションの重要性を再考させてくれるやさしい作品だと感じました。

【公開講座】

子どもの権利条約に絡め、本作に込められたメッセージを語って頂きました。野良猫のミーちゃんの存在が、昨今の競争社会に生きる我々に与えてくれるものは何か。それは、「人間らしさ」である。木附さんは仰います。「人間らしさ」とは、競争を強いる現代社会において忘れられつつあるありのままの自分だったり、人間本来がもつ他者への優しさといったものです。「人間らしさ」というテ

マと本作を重ね合わせますと、主人公(校長先生)は実に人間らしく感じられます。勝手に家に出入りするミーちゃんを疎ましく思っているにも関わらず、突然現れなくなることで必死に捜索を開始する様は、主人公の変人さを更に強調させている、という見方もできます。

一方で、変わった人間だと思われていた校長先生にも人間らしいところがあるのだなと思わせる描写でもあります。人によって映画の解釈は様々だと思えますが、「人間らしさ」をテーマとした映画として捉えた場合、後者のような解釈ができるのではないかと思います。木附さんの実体験に基づいた映画だからこそ、リアルな人間らしさを演出できたのではないかなと思いました。(H・I)



第 142 回は「フォーラム福島」で映画鑑賞 & 講演のスペシャルな内容となりました。

第四百二十三回「地无字と考える」
(二〇一五年十一月七日開催)

「聖書と日本の未来」

講師 三神 たけるさん

盛りだくさんの内容でした。ほとんどの話が自分にとって新鮮で、物事に対する新たな視点を得られたと思っっています。

聖書と日本の未来というテーマに終わらず、ノアの箱舟、ビッグフットといった創世記についても話して頂けましたが、大変興味深い内容でした。バーコードに隠された秘密やインターネットのアドレスでおなじみ「www」の秘話について、斬新な切り口でお話し頂きましたが、まさに既存の常識に囚われない独自の発想で驚きました。権力者による支配はヒトラー政権時代の教訓から、あつてはならないことだと考えられてきました。秘密裏に支配化されたつづがあるのだという三神さんの主張は説得力のあるものでした。社会通念上、誰しもがああいった過ちを繰り返したくないと考えているだろうと僕自身思っていました。が、支配することと良いとする人々も一方であることに恐怖を覚えます。聖書は、愛を説くものという勝手なイメージを抱いていましたが、その肝心の

愛についての詳細な記述がない。だから人々は異なる解釈をして、混沌とした状況を生み出してしまおうのだろうと思えます。

イスラム国によるテロ問題も然りで、解釈が異なるだけで神の捉え方、愛の捉え方、そして生き方が変わってしまっています。かの凶悪な武装勢力は、世界的に最も有名な観光名所の一つであるパリを襲撃したことは記憶に新しいですが、まさにこのことも非人道的な支配欲によるものと考えることができません。一人ひとりが異なるのだということを認め合えば、誰も他者を支配しようなどと思わないでしょう。本当に悲しく、許し難い事件でした。テロそのものよりも、その思想に恐怖と怒りを感じます。

マイナンバー制度の誕生によって支配が完了したのだという主張にはいささか疑問を感じます。というのも、実際に施行されてからでないと何が良くて何が悪いのか分からないからです。そもそも日本国は法治国家であり、人権によって様々な権利が保障されているわけですから、つまり、法が存在している時点で、我々は法によって支配されているということができます。その法律は人間が生み出したものなので、既に他者によって支配されていると言えるかもしれません。しかし、

我々は普通の生活において法による支配を意識していません。マイナンバー制度も、一見、一人ひとりに番号が振り分けられている時点で国に支配されていると捉えることができるのかもしれませんが、制度が充実していくことで、支配というよりも権利の提供に繋がるのかもしれない。こうしたことから、やはり未来は予測し難く思います。ただ、未来予測の一つの観点として、三神さんの視点は大変興味深く感じました。(H・I)

第四百二十二回、百四十三回の感想は福島大・大学院生でシャロームにボランティアに来てくれていた一線さんに寄稿していただきました。ありがとうございました。

マイナンバー

